

宮城県図書館における 東日本大震災の被災・復旧の記録



3階一般図書閉架書庫の図書資料落下(H23.3.11撮影)

平成23年9月(暫定版)

宮城県図書館

発行に当たって

平成23年3月11日午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は、最大震度7を観測し、国内観測史上最大級とされるマグニチュード9.0を記録、この地震により引き起こされた津波は、東北地方から関東地方の太平洋沿岸部を容赦なく襲い、本県においても、甚大な被害がもたらされ、多くの尊い命が失われ、行方不明者も多数に及びました。犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、被災された皆様方には、衷心よりお見舞い申し上げます。

本館における本震時（震度6弱）には、利用者の皆様方の冷静な行動により、幸い、一人の負傷者を出すことなく避難することができましたが、施設設備の一部が損壊、書架の転倒や図書資料の散乱や損傷等も著しく、休館を余儀なくされました。さらに、4月7日の最大余震（震度5強）により、配架を終えていた約5割の図書資料が再び落下、復旧作業のやり直しが必要となり、開館を5月13日まで延期せざるを得ないこととなりました。

県内市町村図書館や公民館図書室においても、施設設備の損壊喪失の他に、多数の資料図書が流失するなどの大きな被害があり、まだ再開に至っていないところもあります。

本館としては、被災図書館等の復興に向け、関係者とともに支援活動を行って参りましたが、今後ともより一層の連携と協力を図ってまいります。

今回は、大震災から半年を経過したことから、本館の被害状況と初動体制、開館に向けた対応と今後の復旧・復興予定を取りまとめ、併せて市町村図書館の被災状況と復旧状況を整理し、記録誌として発刊することと致しました。今後の災害対策に役立てば幸いです。

最後に、本県及び本館の被災に対しまして、多方面から心温まる激励やご支援、ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。今後とも皆様のお支えをいただきながら、一日も早い復興に向けて力を尽くして参ります。

平成23年9月

宮城県図書館長 佐藤 明 男

被災写真



3階逐刊開架書庫 (H23.3.11 撮影)



4階マイクロフィルム保管庫(H23.3.11 撮影)



3階逐刊開架書庫(H23.3.11 撮影)



4階閉架書庫(H23.3.11 撮影)



2階展示室(H23.3.11 撮影)



2階養賢堂正面壁(H23.3.11 撮影)



1階視聴覚室 (H23.3.11 撮影)



中央階段脇ガラス破損(H23.3.11 撮影)



4階貴重資料書庫(H23.3.11 撮影)



3階一般図書閉架書庫(H23.3.11 撮影)



3階一般図書ワーク(H23.3.11 撮影)



2階こども図書室(H23.3.11 撮影)

————— 目 次 —————

	(ページ)
地震・津波の概況（全県）	1
1 本震（東北地方太平洋沖地震）	1
2 余震（最大）	1
3 被害の状況	1
宮城県図書館の被災状況等	2
1 被災状況	2
2 避難応急措置及び休館・復旧等の措置	3
3 再開及びその後の状況	4
4 防災委員会の開催と防災訓練の実施	5
5 今後の復旧・復興計画	5 ~ 6

地震・津波の概況（全県）

1 本震（東北地方太平洋沖地震）

- (1) 発生日時 平成23年3月11日（金） 午後2時46分頃
 - (2) 震央地名 三陸沖（北緯38.1度、東経142.8度、牡鹿半島の東約130km）
 - (3) 震源の深さ 約24km
 - (4) 規模 マグニチュード9.0
 - (5) 最大震度 震度7（栗原市） 県図書館所在 = 仙台市泉区 震度6弱
 - (6) 津波 8.6m以上（石巻市鮎川：津波計等による津波の最大の高さ H23.6.3 仙台管区気象台発表）
7.2m（仙台港：痕跡等から推定した津波の高さ H23.4.5 仙台管区気象台発表）
- 参考：「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」による推定
南三陸町志津川15.9m 女川漁港14.8m 南三陸町歌津14.7m

2 余震（最大）

- (1) 発生日時 平成23年4月7日（木）午後11時32分
- (2) 震央地名 宮城県沖（北緯38.2度、東経142.0度、牡鹿半島の東約40km）
- (3) 震源の深さ 約66km
- (4) 規模 マグニチュード7.1
- (5) 最大震度 震度6強（栗原市、仙台市宮城野区） 泉区 震度5強

3 被害の状況（余震による被害を含む。H23.9.21開催の県災害対策本部会議資料より）

- (1) 人的被害
 - 死者 9,415人
 - 行方不明者 2,141人
 - 重傷 421人
 - 軽傷（その他を含む） 3,579人
- (2) 住家・非住家被害
 - 全壊 75,376棟（調査継続中）
 - 半壊 91,393棟（ " ）
 - 一部破損 172,219棟（ " ）
 - 床上浸水 7,068棟（ " ）
 - 床下浸水 10,982棟（ " ）
 - 非住家被害 27,324棟（ " ）
- (3) 被害額
 - 交通関係 12,401,446千円（調査継続中）
 - ライフライン施設 166,814,501 "（ " ）
 - 保健医療・福祉関係施設関係 50,200,317 "（ " ）
 - 建築物（住宅関係） 3,738,600,000 "（ " ）
 - 民間施設等 735,000,000 "（ " ）
 - 農林水産関係 1,227,386,212 "（ " ）
 - 公共土木・交通基盤施設 1,004,610,000 "（ " ）
 - 文教施設関係 197,760,099 "（ " ）
 - 廃棄物処理・し尿処理施設 5,907,170 "（ " ）
 - その他の公共施設等 70,606,023 "（ " ）

計 7,209,285,768千円

宮城県図書館の被災及び対応状況

1 被災状況

(1) 人的被害 なし(負傷者なし)

*被災時 利用者350名、職員等 県関係81名、業務委託業者17名

(2) 建物等被害

建物・工作物関係

- ・館内壁面の大型ガラス、壁面大型石板等の破損・落下(3階、4階)
- ・エントランス上部ガラス板ひび(1階)、展示室強化ガラス破損(2階)
- ・天井排煙口壁カバー落下
- ・天井ボードや壁の剥離、ひび割れ多数

設備、備品関係

- ・エスカレーター、エレベーター自動停止
- ・書架・書棚類、保管棚類の転倒、損壊(電動書架、貴重資料書庫木製棚を含む)
- ・防火シャッターずれ、スプリンクラーカバー落下
- ・照明器具はずれ、ワイヤー切断

システム関係

- ・主な館内システム、ネットワークの大きな故障なし

図書資料関係

- ・図書資料等(105万点)の殆どが落下。(本震で9割、4月7日余震で約5割落下)
- ・落下図書資料の一部が破損(CD、ビデオを含む)
- ・落下図書資料の一部が水損(新聞など)

外構関係

- ・通路、駐車場等の一部地盤沈下
- ・排水弁等の破損

ライフライン関係

- ・電気：直ちに停電、自家発電切り替え(3時間後)。*停電期間2日間(3月13日復旧)
- ・水道：停電に伴い断水。*断水期間9日間(3月20日復旧)
- ・ガス：直ちに供給停止。*供給停止期間19日間(3月30日復旧)

(3) 被害額(緊急措置施工済み額及び本課への復旧予算要求額：約51,730千円)

措置区分	復旧金額(円)	見積り業者等
1 緊急措置分(破損物撤去・補修等)	3,164,910	施工済み(3ページ参照)
2 本格復旧分	48,565,400	
内装・外構関係	30,991,550	(株)大林組
電動書架補修	12,002,550	(株)オカムラサポート
開架書架	204,750	(株)オカムラ製作所
空調設備	5,366,550	新日本空調(株)

施設復旧費は、国庫補助率3分の2

2 避難応急措置及び休館・復旧等の措置

(1) 職員等の配備状況：3月11日

正職員は、非常配備のため全職員（39名）が配備

* 非常配備のため、管理職を含む2名体制で当直した。

* 臨時職員等を含めた全職員の安否確認の終了は、3月15日。

* 暫定で全職員午前8時30分出勤で、復旧作業にあたった。

（任意の炊き出しを行い、行き帰りの乗り合い通勤を促した。）

* 通勤困難者に対しては、近隣事務所で勤務させるなどの暫定対応を実施した。（1～2日）

嘱託員は通勤勤務を指示（自宅待機、通勤困難者は、休暇又は欠勤扱い）

パート、臨時職員は通勤勤務を指示（自宅待機、通勤困難者は、休暇又は欠勤扱い）

委託業務（4社）社員は被災2名あり。少ない人数で通常通り対応。

レストランの震災当日は6名で営業中。利用客は全員避難。当日は閉店して帰宅。

(2) 主な緊急・応急措置状況

利用者等の避難誘導と安否確認

- ・地震発生に伴い、職員が利用者へ身体保護と安全確保を呼びかける。
- ・緊急館内放送により「職員の指示に従うよう」緊急連絡（防災センターより）。
- ・揺れが収まり安全確認後、各フロアごとに非常口等を利用し、正面玄関先の避難場所へ誘導。
- ・避難場所で安否確認（職員及び家族含む）のうえ、安全・けが・所持品の確認をし、災害状況や交通情報を提供後、利用者帰宅（帰宅終了午後6時頃）。

館内の被災状況確認、破損物除去と清掃、安全措置の実施、本課への報告。

* 緊急措置の実施状況

実施内容	実施期日	施工業者	施工金額（円）
a 落下物除去、落下防止壁措置	3/19,3/21,3/24	原室内(株)	178,500
b 破損ガラス撤去	3/25,3/26,3/30	(株)大林組	753,900
c 電動書架補修	4/20 ~ 4/23	(株)オカムラサポート	1,365,000
d エントランス照明器具修繕	5/9	原室内(株)	63,000
e あずまや支柱修繕	5/9 ~ 5/10	原室内(株)	73,500
f 研修室ガラステーブル修繕	6/12 ~ 6/13	(株)大林組	388,500
g 搬送機復旧作業	4/5,4/9,4/10	(株)日本シユーター	189,000
h マイクロフィルム保管棚修繕	5/23	(株)プレシード	31,500
i エレベーター修繕	5/8	塚本商事機械(株)	122,010
計 9件			3,164,910

館の施工業者及び館内維持管理関係業者への総点検と被害見積り指示

- ・建物全般 : (株)大林組
- ・電気、衛生、消防設備 : 大成サービス(株)
- ・空調設備 : 新日本空調(株)
- ・自動ドア : (株)ハイン
- ・電動書架 : (株)オカムラサポート
- ・一般書架 : (株)岡村製作所

書架等への落下資料の戻し作業（開架 閉架 電動の順） *生涯学習課より応援2名
図書資料の配列復元作業
損傷した図書資料の修復作業（重大破損分は未着手、別途予算要求予定）
図書再度落下防止のための暫定簡易バー設置（4月後半）
平成23年度の業務委託につき、緊急避難的に22年度業者と随意契約（9月末まで）
県内公共図書館の情報収集と本館ホームページへの掲載

(3) 休館措置等

3月14日決定・周知 「3月31日まで休館、延長する場合あり」
* 図書受付返却の停止、市町村図書館への資料搬送の停止
3月25日決定・周知 「開館予定は4月下旬」
* 4月1日から貸出図書返却受付と一部サービス（電話音訳サービス、協力貸出申込み、相互貸借受付）の開始
4月12日決定・周知 「4月7日の余震の影響で開館は5月中旬以降に変更」
* 4月16日からレファレンスの受付再開（限定）
* 被災写真と4月20日付け「館長メッセージ」を本館ホームページに掲載
5月6日決定・周知 「開館は、5月13日を予定」
* 5月11日に職員による防災訓練実施

3 再開及びその後の状況

(1) 開館5月13日（金）午前10時

* 余震、節電等を考慮し開館時間縮小（10時から18時＝7月3日まで）
* 危険箇所等への立入禁止措置、案内・誘導表示の追加設置など
* 開館に伴う特別展『東日本大震災を関東以西の新聞はどう伝えているか』
（5月13日～6月12日、3階新聞雑誌室：当館では購入していない関東以西の地方新聞社に無償での寄贈をお願いしたところ、28社から3月11日当日の号外から4月末日までの新聞の寄贈を受け、1か月間展示した。号外は全部ボード等に掲示し、その他はテーブルの上に置き、手に取って見られるようにした。）
* レストラン「けやきの杜」も同日再開

(2) 5月28日「みやぎ夢大使からのメッセージ」パネル展示（10月27日までの予定）

(3) 7月5日 開館時間を9時から18時までに拡大

* 10月1日からは、平日と土曜日の開館時間を9時から19時（震災前と同じ）までに拡大

(4) 7月22日「宮城県公立図書館等連絡会議」開催

* 参加各図書館（室）から被災・復旧状況について情報交換

(5) 9月16日「公共図書館等職員研修」開催

* 破損本の修復に関する実技講習会により公共図書館等職員の資質向上を図った

(6) 再開後の本館利用状況

・5月13日～15日	一日平均：来館者	1,653名、	貸出数	4,381冊
・5月17日～31日	”	”	1,253名、	” 2,237冊
・6月1日～30日	”	”	1,370名、	” 2,374冊
・7月1日～31日	”	”	1,599名、	” 2,745冊
・8月1日～31日	”	”	1,785名、	” 3,392冊
・9月1日～31日	”	”	1,549名、	” 2,627冊

4 防災委員会の開催と防災訓練の実施

- (1) 3月16日開催(兼班長会議) 議題:被災状況と応急対策について
- (2) 3月24日開催(兼班長会議) 議題:復旧対策について
- (3) 4月22日開催(23年度第1回委員会) 議題:震災対応の反省と防災訓練について
*震災対応の館内反省事項の取りまとめと各班ごとの意見集約
- (4) 5月11日実施 : 23年度第1回防災訓練
*「毎月11日(いちいち)防災点検日」として、防災対策と職員の防災意識の向上を図ることとした
- (5) 5月26日開催(23年度第2回委員会) 議題:第1回防災訓練の反省について
- (6) 7月7日開催(23年度第3回委員会) 議題:第2回防災訓練について
- (7) 7月17日実施 : 23年度第2回防災訓練
*職員半数勤務日の防災対応
- (8) 9月16日開催(23年度第4回委員会) 議題:第3回・4回防災訓練について
- (9) 10月3日実施予定 : 23年度第3回防災訓練
*地震のための火災発生を起因とした避難訓練
- (10) 10月14日実施予定 : 23年度第4回防災訓練
*利用者参加による防災・避難訓練

5 今後の復旧・復興計画 (平成23年9月末時点)

- (1) 本館の本格復旧工事
平成24年1月以降、順次実施予定
- (2) 本館の防災対策の強化
 - ・防災計画の見直し(平成23年7月1日:第1次見直し済み)
 - ・ブックキーパーの取付けなどによる図書落下防止措置の実施
- (3) 本館の「東日本震災文庫」の設置
「東日本大震災文庫」の非購読資料を含めた資料の収集と保存管理及びアーカイブの整備と公開、震災被害、防災、地震学、地域振興等に関する資料購入と公開に併せて、後世の震災や津波・原発事故など複合災害に対処する防災・減災に関わる教育や研究に資する。
- (4) 県内被災図書館等への復興支援

A. 震災復興支援

(ア) 市町村図書館等の被災状況

建物全壊(津波)	南三陸町図書館 女川町生涯学習センター(公民館図書室) 石巻市雄勝分館,同北上分館
建物の応急判定で,危険度が高いと判定	名取市図書館 七ヶ浜図書センター(公民館図書室) 涌谷町涌谷公民館
施設等の被害が大きい	気仙沼市気仙沼図書館(2階部分基礎) 登米市迫図書館(周辺地盤沈下,増築部分のずれ,梁落下等) 登米市登米図書館(書架損壊) 多賀城市立図書館(建物亀裂等多数) 角田市図書館(書架損壊) 仙台市泉図書館(壁,ガラス等)

県内内陸部を含め,各館を巡回し,個別相談を実施した。

(イ) 南三陸町図書館支援活動(各種調整、バックアップを実施。10/19 現在支援延べ日数は約 40 日。)
宮城県内外の図書館や関係機関に呼びかけ実施した支援活動は次のとおりである。

日 程	支 援 内 容	参加者
8月21日	図書資料のフィルムコーティング、図書館プレハブの清掃と資料の移動	25名
9月23日	10月5日再開に向けた準備作業	36名
9月24日	・蔵書押印など図書資料の装備 ・未開梱包資料の選別	30名
9月25日	・書架や閲覧室周辺の装飾 ・システムへの図書資料の登録 他	26名

(ウ) その他現在実施している支援活動

名取市図書館：仮設図書館建設のため、資金拠出団体の仲介をし、具体的な建設方法を調整。
 女川町図書室：各支援団体からの受援の仲介と勤労青少年ホームへの移転に対する助言指導中。
 山元町図書室：公民館図書室の機能が停滞していることから、町立小学校への直接貸出を実施中。
 涌谷町図書室：図書室をくがね倉庫に移転するための調査や支援団体との仲介を実施中。
 七ヶ浜町図書室：図書室の移転や業務再開、運営等について助言指導中。

B. 研修事業

震災の影響により7月以降の実施。公共図書館等職員研修会、 、 、 の4回(講義、演習)を実施(又は予定)。国立国会図書館の協力により資料の修理製本等の講習会を実施。

研修	開催月日	研 修 内 容	受講者
	7月 1日	・県図書館の利活用 ・著作権の基礎 他	35名
	9月16日	・本の修理について講義と演習(講師：国立国会図書館職員2名)	36名
	11月4日	・著作権法と図書館サービス(講師：国立国会図書館関西館職員)	65名
	12月16日	(予定)・児童サービスの基本 ・レファレンスツールの解説	

C. 情報交換

平成23年7月22日に宮城県内公共図書館連絡会議の実施。沿岸部の図書館からも参加あり。
 次回(24年1月又は2月)は規模を拡大し、他館種も含め、県域の図書館および類縁機関と「
 図書館振興フォーラム」を開催する予定。